

議長（志村 忠昭）

それでは、休憩前に引き続きまして一般質問を続けます。

それでは、11番、渡邊美喜子君。

議員（渡邊 美喜子）

11番、渡邊美喜子、一般質問させていただきます。

1点目は、健やか子ども基金条例の制定についてであります。

設置の目的は多度津町が中長期的な視点で計画的に行う創意工夫を凝らした少子化対策、母子保健及び子育て支援事業の実施のため、多度津町が健やか子ども基金を設置する。

県の予算によりますと平成26年度事業額は、1億1,000万円で市町の色々な工夫を凝らした独自企画を支援するとなっています。

各市町が取り組む婚活イベント、子育てひろば、子育て環境の整備、不妊治療への支援など総合的にサポート、市町が住民のニーズを踏まえた事業を独自に企画できるよう子どもの人口などを基に補助金を算定し交付するものでございます。

施行は平成26年4月～32年3月31日まで適用となっており、期間が限られています。

町としての考え方、方針、今後の計画についてお伺いします。

2点目は、健やか子ども基金事業に関連しますが婚活イベントについてであります。

テレビや新聞などで情報発信されていることもあり、多くの町民の皆さんから、町が主催して婚活を実施してほしい、何よりも公的機関が行うことは、安心感、信頼感があり、少子化対策、後継者対策、定住促進につながるのではないか、そしてイベント開催地は、高見島、林求馬邸、街歩き等の意見などの要望も挙がっております。

しかし、殆んど親御さんからの要望が多いわけでございます。

調べてみますと、公的機関が出会いイベント情報発信を行っている自治体もあり、例えば、「やまがた結婚サポート」出会いの機会づくり応援委員会により、企業と関連した独身者交流支援がオープンしております。

少子化対策、後継者対策、定住促進で夫婦の出会いの調査によると恋愛結婚のうち「職場や仕事」での恋愛が29.9%、「友人や兄弟姉妹」30.9%、今後は友人の紹介が多くなってきています。

昔は青年団活動が盛んであったが次第に衰退していったことから、地域におきまして出会いの機会が少なくなったと言えます。

茨城県の「いばらぎサポート」は市と労働者福祉協議会が2001年全国に先駆けて「男女出会いの場づくり」未婚者、晩婚者対策として積極的に結婚支援

に取り組んでいます。

特徴は会員、自ら検索システムを活用しパートナーを探す点があげられます。プライバシーの配慮もされて今までに1162組が成婚に至っています。

実績の要因は、低金額の入会金、広域的な取り組み、マスコミの協力、市町との連携などがあげられます。

婚活について先日、ある知事の方が「税金を婚活に使うのはけしからんという声も聞いているが、地域の活性化、少子化対策は喫緊の課題であり、婚活もその一つである」と話されていたことが印象に残っております。

町のお考えをお伺いします。

3点目は、「わんぱく寺子屋2014」についてであります。

8月22日から24日の2泊3日高見島で開催されました。

しかし、参加児童は22名であり、毎年減少しているように思います。

私もサポーターとして参加していますが、大変に残念であります。

社会性、協調性、自立性など多くのことを学ぶ良い機会であります。

ひとりでも参加の児童が増えてほしいとそう思い、一般質問をあえて取り上げました。

子ども達の環境の変化や保護者の方の意見を聞く為にアンケートなどを考えてはいかがでしょうか。

町のお考えをお伺いします。

以上でございます。

町長（丸尾 幸雄）

渡邊美喜子議員のご質問のうち、「婚活イベントについて」お答えをさせていただきます。

今、人口減少問題が日本創生会議の提起によって大きくクローズアップされております。

私の考えは、常に話をしておりますけども、多度津町の子供達が就学や就職等で一時は町を離れても、いつかは帰ってきてもらって、自分の親や子供達と多度津町で暮らしてもらいたい。

その為に今私達がやらなければならないのは、帰ってくる子供達の雇用を創出すること。

結婚できるような機会を作ること。

そして、子供を安心して育てられる子育て支援を充実させることだと考えております。

少子化、核家族化の進展により地域の結びつきが希薄になっていて、町外に出た子供達が故郷に帰ってきてても地域で見守ることが困難な状況になっております。

結婚機会の創出には、世話好きな地域の方々にもご協力をいただきながら町全体で取り組んでいくことが大事だと考えております。

町の取り組みといたしましては、本年11月に、瀬戸芸で賑わった高見島で少子化問題の施策として、町内外から大学生を呼び込んでFM香川と共催イベントを開催いたします。

また、商工会議所青年部とタッグを組んで婚活イベントにも取り組んでおりますが、議員ご指摘の「いばらぎサポート」も参考にさせて頂きたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げ、その他の質問に対しましては各担当課長より答弁をして参りますのでよろしくお願いを致します。

福祉保健課長（山下 俊和）

渡邊議員のご質問の「健やか子ども基金の事業の計画」について、お答えいたします。

健やか子ども基金は、県の補助要綱が本年度制定され、ご質問の中にありますように、各市町の子どもの人口等を基に補助金額が算定され、7月25日付で多度津町の場合、平成31年度までの事業費分として、440万円の交付決定を受けております。

さて、この基金を使つての事業の予定ですが、県の補助要綱第3条で対象事業として、少子化対策、母子保健の推進、障害児支援等の事業であること、平成26年度以降の新規事業であること、国、県の負担金、補助金、交付金を受けない事業であることなどの規定により、本年度から実施をしております5歳児健診の財源の一部にあてる予定としております。

今回の一般会計補正予算で提案をさせて頂いておりますが、本年度、440万円を児童福祉費県補助金として受け入れ、同額を基金に積み立て、本年度の5歳児健診の費用の一部にあてるため90万円を基金から取り崩す予定としております。

残り350万円についても平成27年度から平成31年度に実施される5歳児健診の費用にあてる予定としております。

以上で、渡邊議員のご質問に対する答弁とさせていただきますので、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

教育課長（岡 敦憲）

おはようございます。

渡邊美喜子議員の3点目「わんぱく寺子屋2014」について、お答え致します。本町の「わんぱく寺子屋」事業は、平成3年度に町内4小学校の児童が合同で異年齢間、年齢の違う子供達が共同体験生活する香川県の補助事業として開始しました。

当時は、多いときで80名ぐらいの希望者があったと記憶しております。

当時、多度津町子ども会育成連絡協議会、そのサポート部会、婦人会、老人会、青年会の方に集まっていたいただき、多度津町わんぱく寺子屋実行委員会を立ち上げ、また高見の人たちやジュニアリーダー、時には、学校の先生を巻き込みながら、共に活動してまいりました。

この多くの携わった人たち無しには、この事業は成り立っていない、感謝にたえないところであります。

また、活動の場といたしましては、白方小学校の運動場を皮切りに、多度津小学校の運動場、或いは堀江公園などで活動、また、一時は、四箇小学校の運動場で行いましたが、そのほとんどは、基本的には旧高見小学校の運動場、現高見研修センターで行っております。

参加した児童のほとんどは、普段味わったことのない体験ができたと好評でありました。

また、本年度は、昨年瀬戸内国際芸術祭で参画していただいた京都精華大学の吉野先生、「蛸の家」を作製した方ですが、この方に来ていただいて「凧作り」のワークショップを行って、少しずつではありますけれども、内容的にも変化させておるところでございます。

さて、渡邊議員ご質問の「近年のわんぱく寺子屋への参加が少なくなっているため、子どもたちの環境の変化や保護者の意見を聞くためにアンケートなどを行なってはどうか」というご質問であります。わんぱく寺子屋実行委員会の方から、「以前のように多くの児童に参加してもらいたい、しかしながら児童が多すぎてなかなか活動しにくい、このぐらいの人数の方が、今回22名ですけども、人数を掌握しやすく、或いは活動がしやすい」との意見も伺っております。

町内4小学校の児童が異年齢間の共同宿泊生活、これをするには、児童にとっては、かけがえのない体験と考えております。

まずは、わんぱく寺子屋実行委員会の方々の意見を聞く中で、今後のわんぱく寺子屋の在り方について検討していきたいと考えております。

以上、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます、渡邊議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（志村 忠昭）

以上で、渡邊議員の一般質問に対する答弁は、町長、担当課長からありましたが、渡邊議員、再質問があればお受けいたします。

議員（渡邊 美喜子）

ご答弁ありがとうございました。

1点目の健やか子ども基金についてございますが、5歳児健診につきましては以前2回ほど一般質問させていただきました。

そういう部分に使っていただけるということで、大変に子育て支援の一環になるのかなあというふうに思っておりますので、頑張ってくださいと思っています。

それから、婚活イベントなんですけども、実はですね多度津町のこんなにもたくさん婚活をしてほしいという意見が、ここ半年ぐらいなんですよね。

それまで私自身、一般質問に取り上げるとは思っていなかったんです。

それがテレビの影響、また県の方の部分もあるのかなあと思うんですけども、親御さんの方から、若い子供さんじゃなくって、親御さんの方から是非ともお願いしたいということで、どうも宇多津の方で先日ちょっとあったらしいんですけども、応募したそうです。

そしたら、抽選漏れをしまして2回ほど出来なかったということ、聞いております。

親御さんにとりましては本当に、私にも子供がいるわけですのでよく分かるんですけども、やはり町が主となって取り組んでいくという部分も一理あるのかなあというふうに、安心感がありますので、そういう部分を思っております。

そこでちょっと県の方の近隣ですか、近くの方でイベントをしたところを見たんですけども、2011年に丸亀でクリスマスパーティを、これは労働者の協議会というのか、そういう部分で丸亀でやったそうです、57名。

2012年には、フィーリングカップルということで、32名。

そして13年は、3年目はフィーリングカップル宇多津で72名の方が参加されたということで、時代の流れはこういうふうになってきているのかなあという部分で、出会いの機会をつくるという部分を含めて、考えていただければなあというふうに思っております。

そしてなぜ、高見島なのかっていう、第1希望が高見島、なぜなのかなあと思いましたが、やはり船に乗って島に行くということで、あまり皆さん、ここは婚活イベントしてるのかなあということが分からない状況でそんなに他の方に見られたくないとか、そういう思いがあって高見島という意見が正直言って多かったのもあります。

それから、もう1件、計画なんですけども、私の方にきてるんですけども、労働者の協議会の方で、毎年やっているところなんですけども、高見島でやりたいんですが、っていう意見も出ております。

これはたぶん高松、それから坂出、丸亀あたりはもちろん多度津も含めてだと思っておりますけども、具体的にお話がききましたら、また町長さんにもお話をさせていただいて、どんな形でするのか分かりませんが、そういうこともひとつの案として出ているということも、これはもう個人的に来てる部分もある

んですけども、もし来られましたら、やはり協力なしではなかなかできないんじゃないかな。

いこいの家もお借りするような形になるのかなあ、それとも高見の小学校の運動場の例えばですね、草抜きを兼ねての婚活イベントに、そこらへんにもなるのかなとか、いろいろとやっぱりね考えてるみたいなんですけども。

具体的に決まってこちらの方へ来ましたら、また町の方へお話をさせていただきますので、その折にはまたよろしくお願ひしたいと思います。

それからですね、先程のわんぱく寺子屋。

私毎年行かしてもらっているんですけども、すごく子供達が変わる2泊3日で、子供たちの目が輝いてくるとそういう部分をすごく感じて、22名はもったいないなど、出来るだけ多くの、一人でも多くの方参加して欲しいなという思いで、質問させていただいたんですけども、実は今日の朝、子供達にこの夏休みにあった高見島のわんぱく寺子屋に行くと、何人かの子供達に聞きましたら、「行っていない」と。「どうして行かんかった、知ってる?」「知ってます」というんです。

「どうして行かんかった?」と言うたら、サッカーが練習があったとかバレーがあったとか、ピアノの発表があったとか塾があったとか、今の子供大変忙しいのかなっていう思いもしたんですけども、でも、本当にいい勉強、社会性もつきますので、私はその時思ったことなんですけども、例えば、サッカーとかバレーの指導員、先生にそのわけをお話して、何日から何日まで高見島のわんぱく寺子屋の方に積極的に行って欲しいなと助言もしていただければ、また違ってくるのかな、また学校関係のPTA関係も子供会の役員さんもおいでしますので、その部分も含めてお話をすると。

サポーターの私達も子供達には、こういうことをするよということで情報を提供する、保護者の方、それから町、それからサポーター、全て含めまして、やはり前向きに進めていくのが一番いいんじゃないかなというふうに思いました。

今日特にそういうことを思ったわけですので、来年は22名じゃなくって、ひとりでも多くの皆さん、子供達が参加していただきたいなというふうにおもっております。

これ全て要望でございますので、よろしくお願ひして、長くなって申し訳ありません。

終わります。

議長（志村 忠昭）

これをもって、11番、渡邊議員の質問を終わります。